

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月6日

上場取引所 東大

上場会社名 東洋製罐株式会社
 コード番号 5901 URL <http://www.tovo-seikan.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 三木啓史
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員総務部長 (氏名) 清水泰行
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月13日

TEL 03-3508-2113

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	578,006	—	14,235	—	13,452	—	2,150	—
20年3月期第3四半期	573,706	2.4	21,614	8.1	23,932	12.1	7,187	△21.8

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	10.45	—
20年3月期第3四半期	34.91	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	%
21年3月期第3四半期	868,486	—	635,812	—	66.5	—	2,805.15	—
20年3月期	895,470	—	650,168	—	66.4	—	2,886.17	—

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 577,555百万円 20年3月期 594,249百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
21年3月期	—	5.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	733,000	△1.7	5,000	△76.7	5,000	△76.9	△4,500	—	△21.86

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
 新規 1社(社名 Next Can Innovation Co.,Ltd.) 除外 1社(社名 深セン東紅開発磁盤有限公司)
 (注) 詳細は5～6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有
 (注) 詳細は、5～6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
 ② ①以外の変更 有
 (注) 詳細は、5～6ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 216,592,000株 20年3月期 216,592,000株
 ② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 10,701,268株 20年3月期 10,696,943株
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 205,893,179株 20年3月期第3四半期 205,896,747株

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成20年10月31日に公表いたしました連結業績予想は、本資料において通期の連結業績の予想数値を修正しております。
 詳細は4～5ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
3. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 平成19年3月14日)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号 平成19年3月14日)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）におけるわが国経済は、世界的な金融危機が実体経済に波及し、企業収益の大幅な落ち込みや設備投資の減少に加え、雇用・所得環境の厳しさから個人消費が弱まるなど景気の悪化が鮮明となりました。当社グループをとりまく環境は、近年の原材料価格高騰や金融危機に端を発した景気の急速な悪化により厳しさを増しております。

このような環境下におきまして、当社グループは、生産・販売・研究開発の分野で業務改革の推進に努めた結果、売上高は5,780億6百万円（前年同期比0.8%増）となりましたが、利益面では、営業利益は142億35百万円（前年同期比34.1%減）、経常利益は134億52百万円（前年同期比43.8%減）、四半期純利益は21億50百万円（前年同期比70.1%減）となりました。

事業の種類別セグメントの営業の概況は以下のとおりです。

〔包装容器関連事業〕

売上高は4,956億57百万円（前年同期比0.4%増）となり、営業利益は76億77百万円（前年同期比55.6%減）となりました。

①缶詰用空缶・その他金属製品の製造販売

飲料用空缶の売上高は、前年同期を上回りました。

清涼飲料向けは、お茶類・野菜系飲料向けが減少しましたが、主力製品であるコーヒー向けが順調に推移したほか、炭酸飲料向けで新製品を受注したことなどにより増加しました。

アルコール飲料向けは、ビール・発泡酒向けが減少しましたが、新ジャンル（ビール風アルコール飲料）・チューハイ向けなどの伸長があり増加しました。

飲料用以外のメタル容器では、野菜・果実食品向けが輸入食品の安全性の問題から国内製品へ移行したことにより増加したほか、コンロ用ガスボンベ・防臭消臭剤向けなどが伸長しましたが、殺虫剤・制汗消臭剤向けが大幅に減少したことに加え、水産食品向けで原材料の不足などにより国内生産が低調に推移し、売上高は前年同期を下回りました。

メタルキャップでは、ビール向けのマキシキャップの輸出が増加しましたが、タイのCrown Seal Public Co., Ltd. が為替変動の影響を受け、売上高は前年同期を下回りました。

②プラスチック製品の製造販売

飲料用ペットボトルの売上高は、お得意先におけるペットボトルの自社製造の拡大にともない、ボトル販売からプリフォーム販売への移行が進んだことなどにより、前年同期を下回りました。

500mlを超える大容量ボトルは、2リットルのお茶類向けでプリフォーム販売への移行が進み、また、ミネラルウォーター・野菜系飲料・健康飲料向けなどが低迷したことにより減少しました。500ml以下の小容量ボトルは、健康飲料・ミネラルウォーター向けが低調に推移し減少しました。プリフォームは、大容量のお茶類・炭酸飲料向けや、小容量のミネラルウォーター・お茶類向けが伸長し増加しました。なお、タイにおいて飲料ペットボトルの容器製造から充填までを一貫して行うToyo Pack International Co., Ltd. が今期より稼働しております。

一般プラスチックボトルでは、ドレッシング・防臭消臭剤・台所用洗剤向けなどが減少しましたが、輸出用の大腸癌診断薬向けが増加したことや洗濯用洗剤向けが液体洗剤の市場拡大により大幅に伸長したことに加え、低カロリーマヨネーズ向けなどが順調に推移し、増加しました。また、タイのWell Pack Innovation Co., Ltd. において果実向けの受注増があったことから、売上高は前年同期を上回りました。

プラスチックフィルムでは、洗濯用洗剤向けの詰替用容器が好調に推移したことや、医療食・流動食向けで市場の伸長による受注増があったことに加え、ペットフード・たれ類向けで新製品を受注したことから、売上高は前年同期を上回りました。

プラスチックキャップでは、清涼飲料・牛乳向けが低調に推移し、売上高は前年同期を下回りました。

③ガラス製品の製造販売

びん製品では、清涼飲料向けが増加しましたが、焼酎・牛乳向けが低調に推移し、売上高は前年同期を下回りました。

ハウスウェア製品では、新規受注があったことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。

④紙製品の製造販売

紙コップ製品では、飲料コップやスープ・菓子向けが増加しましたが、冷菓向けが低調に推移し、売上高は前年同期並となりました。

印刷紙器製品では、ビール・発泡酒向けのジャケットパックや携帯電話・医薬系ドリンク向けが減少し、売上高は前年同期を下回りました。

段ボール製品では、ビール・清涼飲料向けで新規受注やシェアアップなどがあり増加し、売上高は前年同期を上回りました。

⑤エアゾール製品・一般充填品の受託製造販売

エアゾール製品では、制汗消臭剤・頭髮用品・塗料が減少し、売上高は前年同期を大幅に下回りました。

一般充填品では、入浴剤・洗顔フォームなどが減少し、売上高は前年同期を大幅に下回りました。

〔鋼板関連事業〕

売上高は471億93百万円（前年同期比2.8%増）となり、営業利益は42億84百万円（前年同期比69.3%増）となりました。

①電気・電子部品用材料の製造販売

電池材は、国内は、新型電池やゲーム機向けアルカリ電池で販売増があったことや、モバイルパソコン用のリチウムイオン電池向けが好調に推移したことで前年同期を上回りました。海外は、第3四半期のアルカリ電池の需要増により数量では前年を上回ったものの、売上高は円高の影響を受け前年同期並となりました。ブラウン管用部材は需要が縮小していることから大きく減少しました。電気・電子部品用材料全体では売上高は前年同期を下回りました。

②建築用材料の製造販売

ユニットバス向けの内装材は、住宅着工数が回復せず数量では前年同期をやや下回ったものの、売上高は価格見直しの影響でやや上回り、建築用材料全体では売上高はほぼ前年並となりました。

③自動車部品・機械部品用材料の製造販売

自動車部品は、業界の急激な需要減少があったものの、年度前半の国内ユーザーの好調な需要と海外のシェアアップに努めたことなどで前年同期を大きく上回りました。機械部品として使用されるベアリング材は、車両関係の減退の影響を受けたものの、年度前半の中国でのエアコン向けの旺盛な需要があったことで、数量は微減、売上高では前年同期を上回りました。梱包資材用帯鋼も年度後半の鉄鋼業界減速の影響もあり、数量では前年同期を下回りましたが、売上高では前年同期を上回りました。この結果、自動車部品・機械部品用材料全体では、第3四半期で数量が減少しているものの、売上高は前年同期を上回りました。

〔その他事業〕

磁気ディスク用基板・硬質合金・光学用機能フィルム・機械器具および塗薬・微量要素肥料・顔料・ゲルコート・農業用資材製品などの製造販売、建材用ガラス製品・石油製品などの販売、損害保険代理業および不動産管理業などにつきましては、売上高は351億54百万円（前年同期比3.6%増）となり、営業利益は21億81百万円（前年同期比6.7%増）となりました。

所在地別セグメントの業績は、以下のとおりです。

日本では、売上高は5,550億38百万円（前年同期比0.9%増）、営業利益は135億73百万円（前年同期比33.6%減）となりました。

アジア（タイ、マレーシア、中国、シンガポールなど）では、売上高は227億72百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益は4億24百万円（前年同期比59.5%減）となりました。売上高の主な減少要因は、タイにおける為替変動の影響であります。

その他（米国）では売上高は1億95百万円（前年同期比579.7%増）、営業利益は10百万円（前年同期は15百万円の営業損失）となりました。

※上記の前年同期比は参考として記載しております。

なお、当第3四半期連結累計期間における連結子会社および持分法適用関連会社の増減は以下のとおりです。

<1>連結子会社

・増加（5社）

東罐（広州）高科技容器有限公司

Toyo Seikan Technical & Administration Service Center (Asia) Co., Ltd.

広州東罐商貿有限公司

Next Can Innovation Co., Ltd.

ペトリファイナテクノロジー株式会社

